

J A熊本うき青壮年部活動報告

J A熊本うき青壮年部は、松橋・下北・小川・下東・宇土・三角・不知火の7支部で構成され、盟友数298名で活動しています。活動の中心となる宇城地域管内は熊本県のほぼ中央に位置しており、中山間地から平坦地、海岸島嶼からなる地形の特色を生かし、米や麦、施設園芸、果樹を中心に多種多様な農産物を栽培しています。

【食農教育活動】

子どもたち自ら農作業を体験する事で、農産物を育てる難しさや収穫する喜びを感じてもらい、食に感謝するとともに農業の大切さや素晴らしさを知ってもらおうと、各支部において管内の小学生を対象に田植えや稲刈りなど農業体験学習を行っています。青壮年部盟友が指導し、子どもたちの素朴な疑問にも丁寧に回答しています。この他にも、J Aあぐりキッズスクール「秋の収穫祭」では、毎年盟友もスタッフとして参加し、餅つきを上演しています。



▶青壮年部盟友が指導



▶あぐりキッズで餅つきを上演

【婚活収穫体験】

農業後継者の次世代対策を図ろうと1月末に行われたJ A婚活収穫体験ツアーでは、独身男性14名と独身女性11名（地域問わず）が参加しました。収穫体験では管内のデコボンやアンジェレミニトマトを収穫。男性が女性をリードし、収穫をサポートしました。その他、ピザ作りやフリータイムなどで交流を深め、9組のカップルが誕生しました。現在、J Aの婚活支援では4組が成婚しています。



▲婚活でデコボンを収穫する様子

【フレミズと交流】

若手農業者で仲間の輪を広げ、農業を盛り上げようと、昨年から女性部フレミズ部会との交流会を行っています。ミニバレーやボウリング大会、懇親会など交流の場を設けています。



▲ミニバレー大会で交流深める

【リーダー研修】

リーダー研修会では毎年、多くの盟友が出席し、全国大会を目指して「盟友の主張」発表大会を開いています。各支部の代表者たちが農業における悩みや課題、青壮年部活動に対する希望や要望などを発表しました。



▲挨拶する本田昌裕青壮年部長